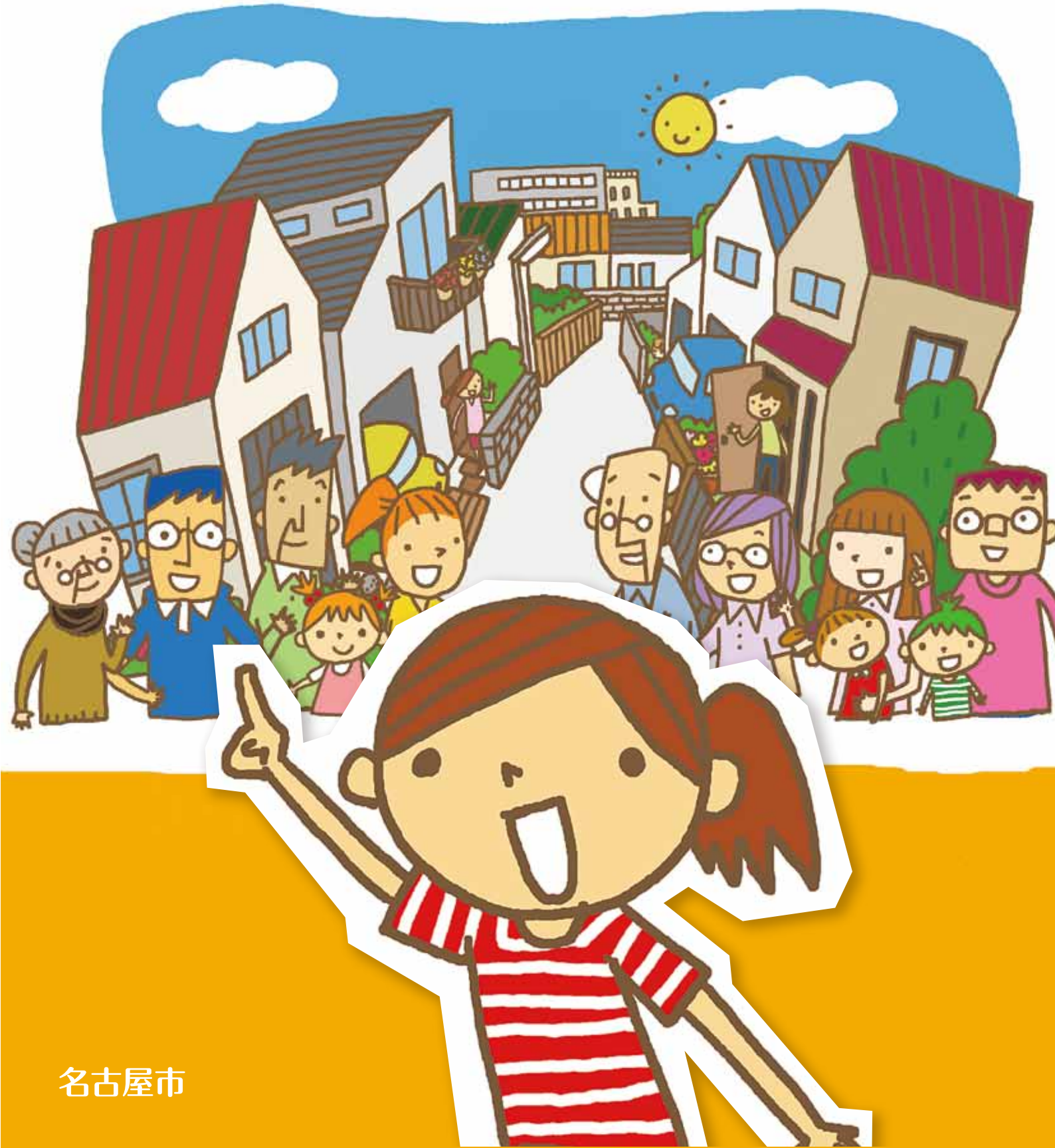
地域まちづくり手引書

まちに飛び出せ！ N子さん



名古屋市

地域まちづくり手引書の使い方

はじめに

名古屋市は、本市の将来の都市像やまちづくりの方向性を示す「名古屋市都市計画マスタープラン」(平成23年12月策定)の中で、まちづくりのすすめ方として、地域住民や自治会、NPO、商店街、企業、行政など、皆さまで地域の事を考え、地域資源や地域特性を生かした特色あるまちづくりに取り組む「地域まちづくり」を位置付けています。

この手引書は、皆さまの「地域まちづくり」のお手伝いとなるよう、「地域まちづくり」とはどういうものか分かる物語や、「地域まちづくり」をすすめるために必要となる知識などがまとめられています。

「地域まちづくりに興味がある」という方や、「地域まちづくりをやっていきたいが、どうしたらいいか分からない」という方に、この手引書を活用していただければ幸いです。

ただ、まちづくりの形は地域によって千差万別であり、必ずしも本手引書の内容に合うものばかりではありませんので、皆さまの地域の実情に合った使い方をしていただければと思います。

最後に、本手引書の作成にあたり貴重なご意見をお寄せいただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。

名古屋市住宅都市局まちづくり企画課

地域まちづくりとは

- 地域がより良くなるために、地域の力(考え)で地域を育てること
- まちの魅力づくり、住環境の維持、防災性向上などの主に土地の利用や建築に関わる、地域ごとの強みや弱みをふまえた、特色あるまちづくりの取り組み
- 多様な主体(住民、自治会、NPO、商店街、企業、行政等)が、役割分担を明確にしながら、その地域の一つの目標=「まちづくり構想」をつくり、その目標に向かってまちづくりを継続していくこと

この手引書はスタート編とマスター編の二部構成となっております。

Start編

～地域まちづくりの基礎知識を身につけよう!～

特徴

- 主に地域まちづくりをこれから始める方を対象としています。
- ストーリー展開があり、最初から一通り読むと地域まちづくりのしくみを知ることができます。
- 地域まちづくりに関する基礎知識が身につく教材として使えます。

Master編

～地域まちづくりのノウハウをもっと深く知ろう!～

特徴

- 主に地域まちづくりを実践している方を対象としています。
- 地域まちづくりの各段階で想定される課題解決のための方法などを知ることができます。
- スタート編でもっと詳しく知りたい時に調べられる事典として使えます。

5年前に比べるとこの道、見違えるほどきれいになったワ。

家がきれいに建ち並ぶこのまちの風景が気に入って10年ほど前に引っ越してきたN子さんでしたが、少しずつまち全体の景色が変わりはじめてきたのが気になっていました。

もともとはおしゃれな2階建ての家が並ぶ、ゆったりとした住宅地だったのですが、道沿いのブロック塀が古くなってきたり、高層マンションを建てる計画がある噂を耳にしたのです。

こうしたまちの変化が気になっていたN子さん、ご近所さんと一緒に自治会の会長さんのところへ相談に行ったのがまちづくり活動をはじめたきっかけです。

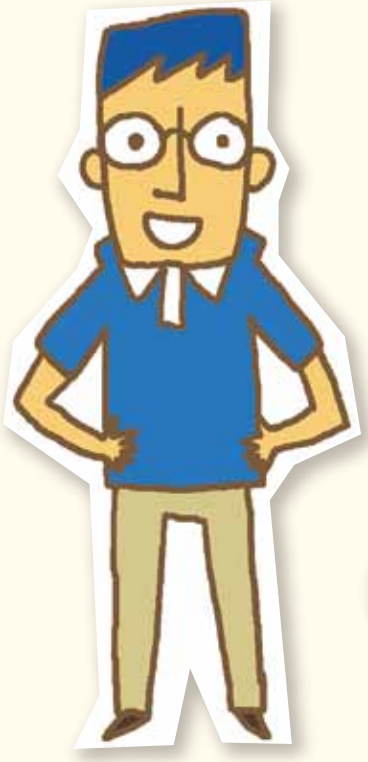
5年経って、いまN子さんはあの時思い切ってまちづくり活動をはじめてよかったと心から思っています。いちばんの成果は、まちのひとたちのコミュニケーションが活発になったこと。一緒にまちのルールづくりや、防災の取り組み、まちの歴史を探ったりすることで、世代を超えて何でも話し合え、相談できる環境が自然にできました。

その結果、まちの人たちみんなが自分たちのまちをきれいに、住みやすいまちにしたいという共通の意識ができ、どんなことも相談し合い、協力し合っていくという雰囲気が生まれました。

この手引書の主人公、N子さんと、そのファミリー

わたしN子です。
年は……うーん、30代後半ということにしておきましょう!
生まれは名古屋の○区ですが、いまは○区に住んでいます。趣味はテニスとお友達との会話、というかおしゃべり。時々誘い合って市内のホテルやレストランなどのランチバイキングへ行くのが楽しみです。

夫は市内の繊維メーカーで働いている会社員。もともとはバリバリ営業の仕事をしてましたが、いまは管理職になって少し太ってきたと、毎朝ジョギングで汗を流しています。実はわたし、そこの会社に働いていて、そこで知り合い、結婚したのです。



子どもは二人。長女は小学校の2年生。長男は幼稚園の年少さんです。長女はとてもがんばり屋さん。去年の運動会では徒競走で1等賞を取りました。長男は大変なわんぱくで、ガキ大将です。でもお姉ちゃんには弱く、何でもいいつけを聞いているみたいです。

そうそう、家族はもう一人…というかもう一匹。チビという犬がいます。お姉ちゃんが一年前に公園で泣いているのを拾ってきて、それからすっかり懐いています。可愛いですよ。

いまの家は結婚して5年目に買った中古の一軒家。民間の会社が開発した住宅地で、中には公園もあり幼稚園や小学校も近いので、とても気に入っています。

でも住み始めてそろそろ10年ほど、隣近所の人たちも少しずつ変わったりで、何となくお付き合いが少なくなっているような気もします。

Start 編

Step 1 P.5 ～ P.6

まちづくりの発意～組織の結成

まちはみんなでつくるもの、そだてるもの

Step 2 P.7 ～ P.8

まちを知る～まち歩き

知れば知るほど、新しい発見が!アイデアが!

Step 3 P.9 ～ P.10

まちづくり構想の案づくり<骨子の作成>

まちの将来像、テーマ、活動内容を決めて
まちづくり構想の骨子をつくる。

Step 4 P.11 ～ P.12

まちづくり構想の案づくり<骨子のビジュアル化>

こんなまちがいいな…
一目でわかるまちづくり構想のビジュアル化を!

Step 5 P.13 ～ P.14

まちづくり構想の合意形成

まちづくりへ…
いよいよ実現化へ向けてのスタートです。

Step 6 P.15 ～ P.16

まちづくり行動計画づくり

役割分担など、まちづくりのための行動計画を

Step 7 P.17 ～ P.18

まちづくりの実践

より魅力あるわがまちづくりをめざして、
がんばりましょう。

Step 8 P.19 ～ P.20

まちづくりの進行管理

さらに住みやすく特色あるまちづくりへ、
N子さんたちの挑戦は続きます。

Step 1 まちづくりの発意〜組織の結成

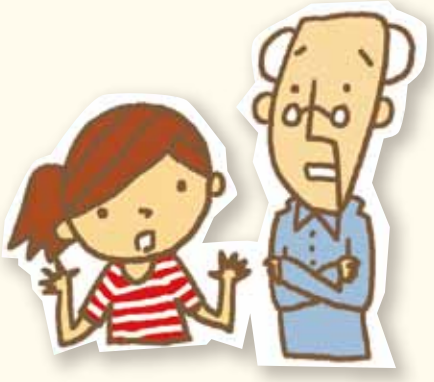
まちはみんなでつくるもの、そだてるもの

きっかけは古くなったブロック塀が気になったこと。

N子さんがこのまちに引っ越してきてから10年あまり、道沿いのブロック塀がだいぶ古くなってきていて、崩れてこないかとても心配。また、近くの駐車場の土地に高層マンションを建てるという噂も耳にしました。家がきれいに建ち並ぶこのまちの風景が気に入って引っ越してきたN子さんにとっては気が気ではありません。ご近所さんに声をかけ一緒に自治会の会長さんのところへ相談に行きました。

One Point Advice

まちづくりで大切なのは仲間づくりです。同じ想いを持っている人はきっといるはず。ご近所の人や自治会などに声をかけてみましょう。



“うん、ワシもそう思っておった。”と会長さん。“ほかにも同じことを思っておる人がいるかもしれんな”と、早速ご近所の人たちに連絡して集まることになりました。

N子さん大はりきり、夫と二人の子どもたちも応援してくれています。

まずは市役所に相談してみましょう。

さて翌週の日曜日。会長さんのお宅にご近所の人たち十数人が集まりました。みなさんまちに対して思っていることを話し合いましたが、まとまりがつかず困ったN子さん、とりあえずインターネットを使って調べてみると、名古屋市が「地域まちづくり」という取組みをしていることがわかりました。さっそく市役所の「まちづくり企画課」という所に電話してみると、土地の利用や建物を中心としたまちづくりを支援しているとのこと。後日、直接会って詳しい話を聞けることになりました。

市の地域まちづくりサポート制度を活用して、アドバイザーの派遣を。

まちづくり企画課の担当者から、“そういうことなら「地域まちづくりアドバイザー派遣」という制度を使って、まちづくりの専門家に相談するのが一番ですよ”と助言されました。それはよいとN子さん。アドバイザーの派遣についてみんなに相談することにしました。

Know-How 地域まちづくりアドバイザー派遣

都市計画にかかわるコンサルタントや建築士など、まちづくりの専門家が、主に土地の利用や建物にかかわるまちづくりの取組みに関するご相談にお答えします。
(窓口:名古屋市役所まちづくり企画課)

きちんとした組織づくりが、まちづくり活動のスタートラインです。

2回目の集まりで、N子さんがまず市役所で聞いてきたアドバイザーの派遣の話を報告。次に会長さんから、まちづくりの専門家を派遣してもらおうと提案があり、全員賛成で派遣を頼むことになりました。そして、次の集まりからさっそくアドバイザーが来ていろいろ助言や指導をしてもらうことになりました。

“はじめに組織を立ち上げて、活動しやすい体制をつくることがよいですよ。同じ関心を持つ地域の人たちを集めて、賛同する仲間を増やしましょう。まちづくりの活動も何かとスムーズにいくよ。”との助言を受け、N子さんを中心に自治会も一緒に新しいまちづくり組織が発足することになりました。

新しい会の名前は「LOVE ♥ MY TOWNまちづくり会」になりました。ちょっとおしゃれね!と、みんな大喜び。ロゴマークづくりには、ご近所の娘さんが手をあげました。アルバイト先のチラシなども作っているとのこと、得意分野を生かせる人たちがいると頼もしいですね。少ないけど会費も出し合って活動することになりました。これで、いよいよ活動が軌道に乗りそうです。

One Point Advice

組織を立ち上げる時のポイント。
同じ関心をもつ人たちを集めて、目標を共有しましょう。また、規約などのルールを決めておくと組織の体制がしっかりします。

組織づくりについては、マスター編 **Lesson 1** を見てくださいね!

Step 1 のまとめ

地域まちづくりの最初のステップは「組織づくり」。きちんとした組織になっていると活動がスムーズに進みます。また、公の助成制度や施設の利用などがしやすくなるという利点があるほか、コミュニティが活発になり、まちづくりのための協力体制ができます。

Step 2 まちを知る〜まち歩き

知れば知るほど、新しい発見が!アイデアが!

百聞は一見に如かず……実際に現地を見てみよう！

次に大事なこと、それは現場を知ることですよと、アドバイザーからの助言を受け、次の日曜日にみんなでまち歩きをすることになりました。もちろん、N子さんの二人の子どもたちも一緒、ちょっとしたピクニック気分です。

でもせっかくだから、会員以外の地域のみんなにも声をかけ、たくさんでまち歩きをしましょうと、簡単な手作りチラシを作り、会員みんなで一軒一軒のポストに配ります。（ポスティング）

さらに、アドバイザーからの提案で、近くの地域ですでに活動を行っている団体や、NPOの事務所も訪ね意見交換をすることになりました。N子さんたち、ちょっとドキドキです。

One Point Advice

事前にチェックリストをつくること。
まちの成り立ちや特に気をつけて見る箇所、その理由などを記した地図、メモを渡しておきましょう。また、写真を撮る人、スケッチをする人、記録係など前もって役割を決めておくことも大切です。

よいまちだね・・・まちへの愛着がわいてきます。

まち歩きの当日は快晴。会員以外の地域の人、商店街の人なども参加して、総勢約20数人で歩くことに。アドバイザーからいろいろアドバイスをもらいながら実際に歩いてみると、いままで気がつかなかった課題なども出てきた反面、建物の調和が取れているこのまちのよさをあらためて感じたN子さんたち、せっかくのこのまちなみを大切に守ろうと決心しました。

まち歩きについては、マスター編 Lesson2 を見てくださいね!

地域の人たちにもっと知ってもらおう！ 参加してもらおう!

その後も何度か会議を重ね、隣の地区の同じようなまちづくりグループやNPO法人の人たちとの意見交換も行いました。組織のネットワークも広がっていきます。その都度、パソコンが得意なN子さんの夫が中心になって写真やカット入りのわかりやすい会議の議事録を作ってくれています。

そこで、会の活動にもっと地域のみんなに参加してもらってもう一段ステップアップしようと、まちづくり企画課の「地域まちづくり活動助成」を申請し、受理されました。

One Point Advice

意見交換を行う時には、その地域に長く住んでいて地域のことをよく知っている人が参加すると、地域の昔の姿を知ることができまちの課題や、今後の活動のヒントが見つかります。

One Point Advice

申請を行う際には申請書が必要となり、はじめて作成する方にとっては骨の折れる作業ですが、行政とよく相談し作成するとスムーズです。

この助成金を使って、いままでの活動の記録を中心にした「LOVE ♥ MY TOWN まちづくりニュース」の製作に取りかかります。担当はもちろん、N子さんの夫と絵を描くのが好きというご近所の娘さん。写真などをたくさん入れてこのまちの素晴らしさを地域全体に知ってもらうことと、会員の募集が目的。ポスティングを中心に、自治会のみなさんに配ってもらったり、掲示板に貼るなどいろいろやってみます。

Know-How 地域まちづくり活動助成

地域まちづくりを目的とした団体の活動の経費の一部を助成する制度で、調査・研究費、セミナー、ワークショップなどの経費、広報、印刷、出版、会議費などの一部を助成してもらえます。

（窓口：名古屋市役所まちづくり企画課）

あれも気になる、これも気になる、と意見がいっぱいでてきます。

「LOVE ♥ MY TOWN まちづくり会」ができて半年余り、まち歩きもあれから2度ほど、会議も10回近く開いてきました。会議では、みんなが意見を出しやすいような方法や意見のまとめ方をアドバイザーから教えてもらいました。これまでに話題となった意見をここであげてみましょう。

意見の発案については、マスター編 Lesson3 を見てくださいね!

❶きれいに家が建ち並ぶまちなみが好き。
❷公園に大きな花壇があるので、自分たちの手で花いっぱいにしたい。
❸ご近所に高層マンションが建つという話がある。せっかくのまちなみが心配。
❹古いブロック塀があり、地震などの際に心配。
❺趣きのある昔の「土蔵」の壁がはがれてきている。

One Point Advice

情報が一目で分かるように、大きな紙を使い写真を貼ったり、イラストやマップなどを書き込んでいきましょう。問題や課題の共有化に役立ちます。

Step 2 のまとめ

まちの課題を見つける方法はいろいろありますが、いちばんわかりやすく効果的なのは、実際にまちを歩いてみることです。普段何げなく歩いている風景も、意識して歩いてみると新しい発見があり、魅力や課題などがうきぼりになってきます。まち歩きのポイントは事前に充分調べること、当日はまちに詳しい人やまちづくりの専門家と一緒に歩くこと、そして終わったら記録をきちんとまとめ、わかりやすい資料をきちんと作っておくことです。

Step 3

まちづくり構想の案づくり<骨子の作成>

まちの将来像、テーマ、活動内容を決めてまちづくり構想の骨子をつくる。

そろそろいままでででてきた課題を整理し、分類することをはじめよう。

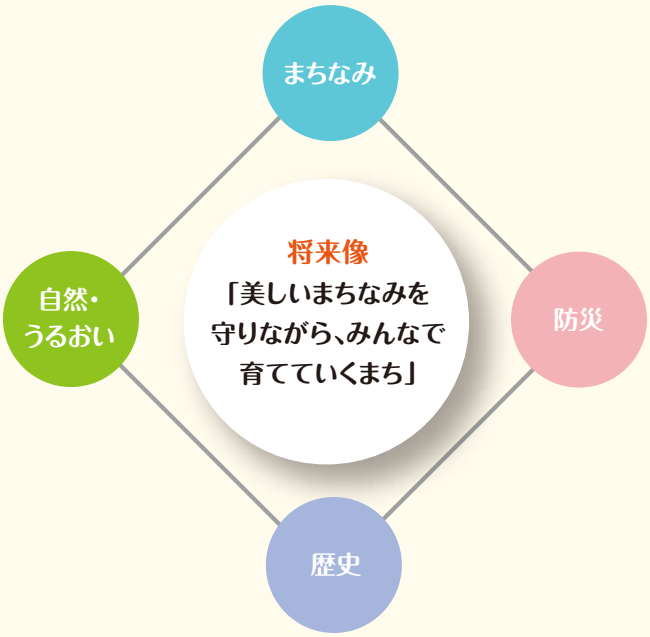
活動をはじめて2年目。この間、毎月1回ずつは集まって話し合いを続けてきました。子ども会や女性会などの団体の人たちとも一緒になってまちの事を考えています。写真やスケッチ、メモもずいぶん増えてスクラップブックがもう数冊になっています。

“そろそろ意見の整理をして、まちの将来像を具体的に考える時期だね”とN子さんたちは考えました。そこで、将来のまちのイメージが一目でわかる「まちづくり構想」をつくることになり、そのための助言を専門家に頼もうと、まちづくり企画課へ「地域まちづくりコンサルタント活用助成」を申請しました。「まちづくり構想」の策定作業がコンサルタントを交えて具体的に動き出すことになります。

意見の集約方法については、マスター編Lesson3を見てくださいね!

住みたいまちの将来像をイメージし、テーマの設定を行いましょう。

次回の集まりからはコンサルタントも加わって熱心な検討会議が始まりました。コンサルタントからは、「まちづくり構想」を考えるにあたってまず大事なことは、課題の整理をしながら、まちの将来像をみんなで考えていくことという助言がありました。話し合いの結果、「いまのまちなみを守り、育てる」ことを第一に、みんなで将来像といくつかテーマを設定しました。



Know-How

まちづくり構想

地域の「将来像」とそれを実現するための「方針」をまちづくりに参加する人たちみんなが共有できるものとしてまとめたものです。方向性を一つにすることにより、地域のまちづくりが効果的・効率的にすすみます。

Know-How

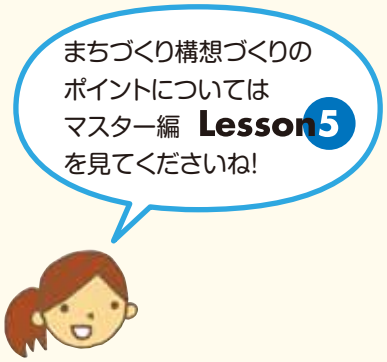
地域まちづくりコンサルタント活用助成

会議の司会・進行や資料作成などまちづくり構想の策定や、構想実に向けた事業化の検討業務をコンサルタントに委託する費用の一部を助成する制度です。

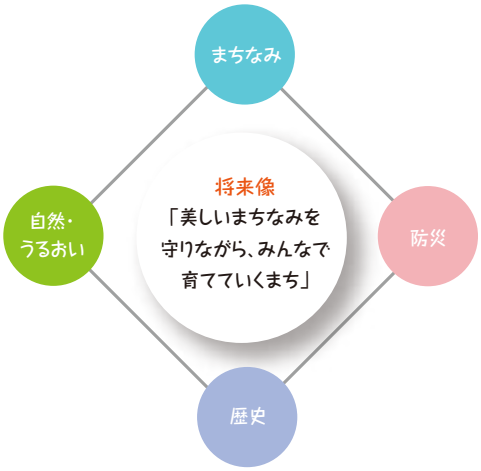
(窓口:名古屋市役所まちづくり企画課)

テーマごとに活動内容を決めましょう。

まちの将来像、テーマが決まったら次はテーマごとに活動内容を決めます。他の地域での同じような組織の活動も参考にしながら、自分たちとしてできる範囲でどう取り組むかをポイントにコンサルタントから助言を受け、みんなで話し合って活動内容を決めます。また、市のまちづくり企画課にも案を持って行き、いろいろ相談して活動内容を決めた結果、まちづくり構想の骨子ができあがりました。



LOVE ♥ MY TOWN まちづくり会
○○地区　まちづくり構想



いまのまちなみを守ろう
- 家がきれいに建ち並ぶまちなみを守れるルールをつくろう
- 実際にルールをつくっている地区を視察しよう
- …

自然・うるおいがあふれるまちにしよう
- 公園の花壇の手入れをしてまちにうるおいを増やそう
- …

災害に強いまちにしよう
- 古くなったブロック塀をなくして、崩れてこないようにしよう
- …

まちの歴史をを生かそう
- 趣きがある昔の土蔵を地域で活用できるようにしよう
- 郷土史などの調査をしてまちの歴史を研究しよう
- …

また、一番大切にしたい「まちなみを守ること」については、コンサルタントから「建築協定」や「地区計画」などの説明が活用できるということと、そのポイントや違いなど専門的な説明を受けました。

Step 3 のまとめ

いままで出てきた課題を整理しながら分類し、まちの将来像、テーマを設定します。そして具体的な活動内容を設定し、まちづくり構想の骨子を作成します。これらの過程の中で大切なことは、みんなで意見を出し合い考えること、みんなでやれる内容・共有できる内容にすること。ほかの地区での取り組みを参考にしたり、専門家と相談することや行政の担当部署と意見交換することも有効です。

Step 4

まちづくり構想の案づくり<骨子のビジュアル化>

こんなまちがいいな・・・一目でわかるまちづくり構想のビジュアル化を!

誰にでも、まちの未来像がイメージできる工夫をしよう。

「LOVE ♥ MY TOWNまちづくり会」の活動も3年目に入ります。早いもので長女はもう4年生、長男は今年いよいよ小学1年生になります。

「まちづくり構想」案の方もみんなでずいぶんがんばった結果、どうにか骨子ができあがってきています。これをもっとわかりやすいものにするために、いま一度コンサルタントの力を借りようということになり、市へ「地域まちづくりコンサルタント活用助成」の申請をしました。構想案全体の構成、編集はコンサルタントの助言をもとにすすめ、ビジュアル化はご近所のデザインや写真などが得意な人たちが集まって作業に取りかかります。

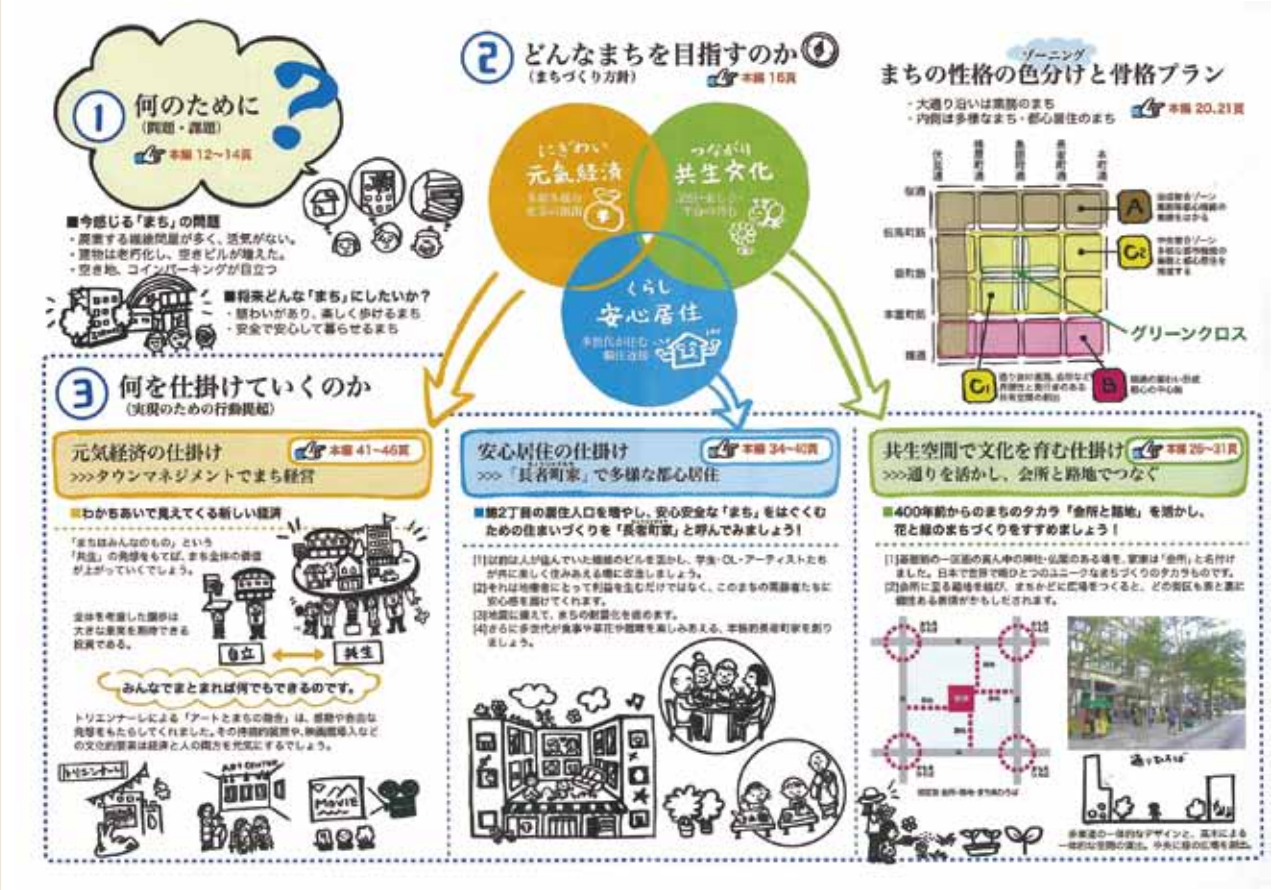
イラストや写真などをふんだんに使って、わかりやすい工夫を。

ビジュアル化は、コンサルタントのアドバイスで様々な工夫を、特にイラストや写真、図表などを多く使って、これからの美しいまちなみが一目で分かるよう工夫しました。

こうした作業でN子さんたちはけっこう夜遅くまでの作業が続きましたが、夫が夕食の支度をいつもしてくれて大助かり。子どもたちも“大丈夫だよ、がんばれ!”とはげましてくれています。

ビジュアル化の例を紹介します。
イラストや写真などを使って、地域の想いを分かりやすく伝えています。

錦二丁目まちづくり連絡協議会が発行した
「これからの錦二丁目 まちづくり構想（2011-2030）手引き編」より抜粋



Step 4 のまとめ

地域まちづくり活動を行うためには、地域の人たちの理解と協力を得ることが大切です。ですから構想案は難しい文字や図表などだけでなく、誰が見てもわかるよう写真やイラスト、地図や図表などを使い情報のビジュアル化を心がけましょう。

Step 5 まちづくり構想の合意形成

まちづくりへ・・・いよいよ実現化へ向けてのスタートです。

「まちづくり構想」案の説明会を開催しましょう！

やっとできあがった「まちづくり構想」案ですが、地域における共通の目標にするためには、地域のみんなの合意を得ておく必要があります。

手始めにN子さんたち会の役員が手分けして、地域全体にこの「まちづくり構想」案とアンケート用紙をポスティングして意見を聞くことにしました。

その結果「まちづくり構想」案について様々な意見が出てきて、いくつか反対意見、質問などもあります。そこで、自治会長さんとも話し合い、コンサルタントからの助言もあって、地域のみんなに集まってもらい「まちづくり構想案説明会」を開催することになりました。

One Point Advice

地域のみなさんにこの構想案を知ってもらい、合意をしてもらう活動は、N子さんたちにとってはかなり骨の折れる仕事です。でもここが肝心、**住みよいまちづくりをみんなで実現するために、オープンな場で皆さんから意見を聞いて、説明することが大切です。**そのためには「説明会」の開催は有効な方法です。

オープンな場での意見交換をしっかりやることが合意形成のポイント。

説明会は、近くのコミュニティセンターの会議室を使って開催しました。なるべくたくさんの地域の人たちに集まってもらうため簡単な手作りチラシのポスティングと、自治会の掲示板などを使いました。説明役はN子さん。専門的な質問にはコンサルタントから説明をしてもらいます。

説明会では、多くの質問や意見が出てきて、みんなで意見交換をしながら構想案をまとめていきます。でも、その場ではまとまりきらない内容もあって、N子さんたちは今日出た課題を一度持ち帰って修正案を考え、二回目の説明会で再度みんなと議論することにしました。

また、修正案を考えるにあたっては、行政の担当部署とも再度調整しました。

根気よく合意形成を進めていきましょう。

二回目の説明会では、N子さんたちがつくった修正案でおおむねの合意を得ることができました。ただ、細かい部分でまだ少し課題が残りました。

“本当にみんなが納得できるものでないと駄目だ!”とN子さんたち。意見をいただいた方との個別の打合せや説明会を重ね、ようやく地域のみんなの合意を得ることができました。

「まちづくり構想」が完成！
いよいよまちづくりの実践のスタートです。

ついにN子さんたちのまちに「まちづくり構想」ができました。これでこの地域の共通の目標が目に見える形になり、みんなで共有することができます。

これを機に、地域のコミュニケーションが増えてまちが元気になってもらえたらとN子さんの期待は膨らんでいきます。

いままで「まちづくり構想」づくりに関わってきたみんなで、自治会長さんのお家に集まってお祝い会を開きました。

でもこれがゴールではありません。これからが本番だとN子さんは決意を新たにしました。

コラム

「まちづくり構想」を「名古屋市都市計画マスタープラン」に位置づけ

地域がつくった「まちづくり構想」のうち、都市計画マスタープランの分野別構想の施策の方向性に沿った内容を含む構想を都市計画マスタープランの「地域別構想」に位置づけることができます。

都市計画マスタープランに位置づけることで、まちづくり構想がその地域における都市計画上の指針となり、具体のまちづくりや開発事業の推進力となることが期待されます。

「名古屋市都市計画マスタープラン」は、名古屋市公式ウェブサイト上で公開されています。「都市計画マスタープラン」で検索してください。

●分野別構想…P28～
●地域まちづくりの推進…P77～
●都市計画マスタープランへの位置づけ…P82

Step 5 のまとめ

組織でつくった「まちづくり構想」案ですが、地域のみんなが共有できる「まちづくり構想」にするためには、みんなから意見を聞いて合意をとらなくてはなりません。根気と手間が必要ですが、住みよいまちづくりのためにがんばりましょう。

Step 6 まちづくり行動計画づくり

役割分担など、まちづくりのための行動計画を

地域のコミュニケーションづくりもかねて具体的な活動をはじめましょう。

いよいよN子さんたちのまちづくり活動も実践の段階になりました。自治会、商店街組合それに地元のNPO団体などとの意見交換も行い、役割分担など具体的な計画を立てることになりました。

早速「まちづくり構想」に位置づけたテーマごとに各活動を行う班を結成しました。

公園の花壇の手入れなどすぐに取りかかれる活動は、気軽に参加できるグループとしてたくさん地域のみんなに参加してもらうことにしました。また、まちなみを守るルールや手法の検討は、時間がかかりそうなので長期的な活動としてじっくりと腰をすえてやっていくことになりました。

One Point Advice

様々なテーマの活動を用意すると、多くの住民が参加しやすくなります。

行動計画づくりについては、マスター編 Lesson5 を見てくださいね!

担当者と責任者を明確にしよう！

次にそれぞれの班の担当者を決め、責任者を決めました。N子さんは「うるおい増やす班」の責任者。夫は「まちなみ守る班」の責任者です。自治会の会長さんからは、おかげで自治会の活動もずいぶん活発になったよと、喜ばれています。

●まちなみ守る班

長期的な視点でまちなみを守り育てるためにはどうしたらよいか、ルールづくりを中心に、地元の人たちとじっくり時間をかけて議論をします。議論には行政の担当部署も参加してもらい、行政の立場から様々な意見を出してもらいます。

●うるおい増やす班

地域の女性たちが中心の活動。「公園の花壇の手入れ」、「清掃活動」など、まちを花で飾っていきます。これには子どもたちやお年寄りたちの協力も欠かせません。

●防災すすめる班

古いブロック塀をなくして地震の被害を少なくするなど、災害に強いまちにしていきます。みんなの命を守る活動なのでとても大切だね、とN子さんたち。

Know-How

活動にあたって

「公園の花壇の手入れ」などの活動を行うには、**公園の管理者である各区の土木事務所にご相談ください。**地区内の公園愛護会等との連携が必要な場合もあります。

●わがまち探検班

まちの歴史を再発見と活用を!と若者が立ち上げました。これにはお年寄りたちも大乗り気。「文化のかおり高いまちづくり」をと、はりきっています。

Step6 のまとめ

なるべくたくさんの人たちに呼びかけ、いろいろな班の活動に参加してもらいましょう。こうした活動を通して、いままで知らなかった地域の人たちの間に交流の輪を作っていくことが大切です。これらの活動はまた、いままでにあがったまちの課題を一つずつ解決していく実際の活動としても効果がありますし、コミュニティの活性化になるなど様々な相乗効果をもたらすことにもなります。

Step 7 まちづくりの実践

より魅力あるわがまちづくりをめざして、がんばりましょう。

活動の実践も本格化！
各班の活動が軌道に乗ってきたようです。

さて、活動もはじめて5年目です。早いもので長女は小6、長男も小3となりました。

まちづくり構想の中で決めた活動内容も、いよいよ本格的な取り組み時期になってきました。

「まちなみ守る班」は、月に2回のペースでまちなみを守り育てるためのルール（地区計画、建築協定など）についての勉強会を開いています。ルールにはそれぞれの特徴があり、このまちに一番合ったものを選ぶためにみんな一生懸命勉強したり、実際にルールをつくっている地域に話を聞きに行ったりしています。そこでは、みんなが守れるものにすることが大切だと助言をもらいました。

活動を続けていると、新しい課題も出てきます。

「うるおい増やす班」に入っているN子さんと子どもたちは、毎月第一日曜日に公園の花壇のお世話をしています。どんな花がよいのか、公園を管理している土木事務所に相談しながら班のみんなで決めました。子どもたちは“早く花が咲いてくれないかなぁ“と、待ちきれない様子。“やっぱり何事も楽しくないとね!”とN子さんは子どもたちの顔を見ながらそう思いました。

さて、ここ最近班の中で、“公園だけじゃなくてまち全体に花や緑が増えればもっとまちがよくなるんじゃない?”という意見が出ています。それにはみんな大賛成なのですが、具体的にどうすればよいのかなかなか話がまとまりません。他の班も集まる次の全体会議で、皆さんの意見も聞いてみようと思っています。

One Point Advice

無理なく続けられることから始め、息の長い活動にしましょう。

一方、他の班でも…

古いブロック塀をなくしていくためにはどうすればよいか、「防災すすめる班」は考えています。新しく直したとしてもまたいつかは古くなるし、住民みんなが協力していかないと解決にはならないねと、班のメンバーは悩んでいます。

各班が連携して、よりよい活動に。

さて、月に1回開かれる各班が集まる全体会議で、「うるおい増やす班」から“公園だけでなくまち全体に緑を増やしたい。”という話が出ました。“それなら、まちなみを守り育てるルールに塀の種類を決めることができるものがあるので、次に塀を作り替える時には生垣にするというルールもできる。”と「まちなみ守る班」からも提案がありました。すると、「防災すすめる班」からも、“ブロック塀じゃなくて生垣になれば道に崩れてくる心配はないし、ルールができれば、新しい住民の人たちにも協力してもらえるね。”との賛成の声が。

“市にもいろいろな支援制度があるみたいだから、活用できれば実現への早道になるわね。”との意見も出ました。

他の班からも意見をもらって、「まちなみ守る班」が考えるルールも少しずつ中身が決まってきたようです。

いろいろな支援制度については、マスター編 Lesson7 を見てくださいね!

One Point Advice

同じような活動を行っている地域に視察に行くのも有効な手段です。課題を解決するためのヒントも得られるかもしれません。

Know-How

「建築協定」

建築協定は、住民主体による個々の地域の特色を生かしたまちづくりのための制度です。土地所有者等の合意のもと建築のルールに関する協定を結び、住民自ら運営し、その地域の意思を反映したまちづくりを行っていくものです。

「地区計画」

地区計画は、地区レベルのきめ細やかなまちづくりのための制度です。道路や公園などの地区施設や建築物、土地利用に関する事項を計画地区内住民の意向を反映しつつ総合的・一体的に都市計画に定め、その地区の特性にふさわしいまちづくりを進めます。

Step7 のまとめ

それぞれの班の活動も続けながら、定期的に全体的な会を開き、他の班と連携できることを考えましょう。新しい考え方が生まれ、よりよいまちづくりに発展していくことが期待できます。

Step 8 まちづくりの進行管理

さらに住みやすく特色あるまちづくりへ、N子さんたちの挑戦は続きます。

地域全体のコミュニケーションも一段と活発になって来ました。

“このまちづくり活動に地域のたくさんの人が参加してくれて、みんなの交流が深まったよ、ありがとう”と自治会長さん。

そろそろワシも若い人に代わってもらって隠居かなと大笑い。地域のコミュニケーションもずいぶん活発になり、まち全体が少し元気になってきたようです。

活動の総括のためフォーラムの開催を考えましょう。

そこでN子さんたちは、いままでの活動の総括を行うことを目的に、「地域まちづくりフォーラム」を開くことにしました。その開催の資金として「地域まちづくり活動助成」を受けました。さあ、会はその準備に大わらわです。

まずはパネラーの人選。他地区のNPOの人たち3人に、自治会の会長さんと役員から一人。市の担当者も一人出てもらうことになりました。司会・進行はN子さんです。広報はN子さんの夫が中心になって、チラシやポスターそれに当日の冊子づくりをはじめています。

会場は近くのコミュニティセンター。当日は約100名の人たちが集まり、他の地域の団体、市の関係者も招き、「LOVE ♥ MY TOWNまちづくり会」5年間の活動報告と市全体の問題としてこれからの「地域まちづくり」についての意見交換が熱心に行われました。これから活動をさらに活発化していくためには、自分たちでも資金を何とかしなくてはと、今後の課題も見えてきました。

One Point Advice

フォーラムの終わった後の懇親会の会場で、いままでがんばったN子さんやN子さんの夫をはじめ、会の役員、それとデザイン担当のご近所の娘さんが、自治会から感謝状を受けました。がんばってまちを元気にしたとの理由です。

まちづくり活動にはこんな表彰制度の活用も有効な方法です。

活動を振り返り、改めてまちのいまを眺めてみましょう。

無事にフォーラムも終わり、あらためて「LOVE ♥ MY TOWNまちづくり会」の会員のみなさんと一緒にまち歩きをしてみます。まちのルールがあると、私たちが好きなまちが守れるねと、いまのまちの姿を見ながらあらためてそう感じました。公園の花壇にもきれいな花が増えました。“とてもよいまちだな…”あらためてこのまちのよさを感じた一日でした。

必要経費と資金源については
マスター編 Lesson6
を見てくださいね!

まちづくりは、やる気と根気と元気……
N子さんはつくづく思いました。

自治会は会長さんが新しくなり、少し若返ってがんばりますとはりきっています。その自治会から引き続きまちづくり活動をやっていこうという強い声。「LOVE ♥ MY TOWNまちづくり会」としても、もちろんそのつもりです。引き続きN子さんはリーダーとして、会をしっかり引っ張っていこうと思っています。夫と子どもたちからは、“お母さんがんばって!素敵だよ!”とはげましの声。なによりうれしいことですね〜。

他地区との提携も視野に入れて、
いっそう広いエリアでの活動も考えましょう。

N子さん、さっそく活動の開始です。集会では、一度原点に戻ってみようと提案しました。そこで、はじめてまち歩きをした時に出ていた問題や課題を見直して、やり残したことに取り組み、まちづくり構想のバージョンアップも考えていくことにしました。またこれからは、他の地区のまちづくりグループとの協力関係をいっそう強くして、より広域でのまちづくりの実現をめざしたいと思っています。

One Point Advice

活動の検証　**まちづくり活動のもう一つ大きなポイントは検証活動です。**定期的にまちを回ってルールが守られているかどうかの検証を行っていきましょう。

Step 8 のまとめ

N子さんたちの奮闘記はこれで終わったわけではありません。
今回はいわばスタート。これからはいままでの検証を続けていきながら、うきぼりになった地域の課題にきちんと取り組むことが大切です。
そして、皆さんがまちに愛着と誇りを持てるようなまちづくりにしてください。そのまちのオンリーワンのブランドを育てていきましょう。

行政、地域まちづくりアドバイザーについて

私たちは、
こんな方々に相談をしたり、
アドバイスを
お願いしたのよ。

市役所

まちづくりの支援制度
（地域まちづくりサポート制度など）
の紹介など、皆さんと一緒に
解決方法を模索します。

地域
まちづくり
アドバイザー

皆さんの
まちづくりの悩みに
アドバイスしますよ!

市に登録されている、まちづくりの専門家の方々です。

- 技術士や建築士の資格を持っています。
- 都市計画や建築、まちづくり活動などのまちづくりの実務経験が豊富です。
- 皆さんの地域へ行き、まちづくりの悩みの相談に乗ります。
- 主に土地の利用や建物にかかわるまちづくりの取り組みに関する相談にお答えします。

例えば……

- まちづくりの具体的な手法や事例の紹介
- 共有できる将来像や取り組み方針などまちづくり構想の作り方
- まちづくり団体に参加してくれる人を増やす方法
- 団体の活動を地域住民に知ってもらう方法　など

Master編

Lesson1 …… P.23 ～ P.24

組織づくりのポイント

組織をつくるメリット、組織づくり・持続させるポイント

Lesson2 …… P.25 ～ P.26

まちの課題を見つけるテクニック

課題を見つけるための方法、まち歩きのポイント

Lesson3 …… P.27 ～ P.28

意見の発案、集約方法

ブレーン・ストーミング、カード整理、カード上げゲーム

Lesson4 …… P.29 ～ P.30

会議の場での合意形成のコツ

意見交換の前提条件、意見交換のテクニック

Lesson5 …… P.31 ～ P.32

「まちづくり構想」づくりのポイント

必要性、作成におけるポイント

Lesson6 …… P.33 ～ P.34

必要経費と資金源

必要経費、財源の種類

Lesson7 …… P.35 ～ P.36

名古屋市の支援制度について

地域まちづくりサポート制度、地域まちづくり関係支援制度

Lesson8 …… P.37 ～ P.38

まちづくりの事例

日進市芦廻間（よしはざま）地区のまちづくり

Lesson 1 組織づくりのポイント

ここでは、まちづくりを始める際に必要な組織づくりのポイントについて学びます。
まちづくり活動を行うには、一人でも行うことはできますが、
仲間と協力し合うとより幅広い活動を行うことができます。
そのために仲間同士が集まって組織をつくると活動がスムーズに進みます。

1 組織をつくるメリット

(1)地域にとって

- 多様な主体(住民、自治会、企業など)が集まり、地域の課題や魅力を集約できる。
- 地域の総意として合意形成を図る場となることができる。
- コミュニティが活発になり、住民同士の協力体制ができる。
- いろんな立場や考え方の人が集まることによって相乗効果が生まれ、新しい考えが浮かび課題を解決しやすい。

(2)組織にとって

- 支援制度が利用でき、助成金やまちづくりの専門家のアドバイスを受けることができる。
- 公共施設を活動の場として利用しやすい。

(3)運営にとって

- 活動で必要な役割を分担できる。
- まちのルールを運営することができる。

2 組織づくりのポイント

(1)まちの課題に同じ関心をもつ住民からスタートし、活動を広め賛同する仲間を増やす。
(2)仲間は偏らず、様々な属性(住民、自治会、NPO法人、商店街、企業など)や老若男女を集める。
(3)まちづくり活動に必要な役割(連絡、会計、広報誌制作など)を担う人材を集める。
(4)役員(代表、会計、監査など)、規約を決める。
(5)既存の組織(町会や自治会、NPO法人など)と調整し、また他の団体とも連携しながらネットワークを広げる。

3 持続させるポイント

(1)体制について

- 事務局体制をしっかり構築する。
- 特定の人に負担をかけすぎない。
- 参加者が誰でも役割を持ち、やりがいを感じるようにする。

(2)環境について

- 新しいメンバーが入りやすい、オープンな環境をつくる。
- 同じ世代ばかりで活動するのではなく、様々な世代と活動する。
- まちづくりニュースを発行するなどして、周囲に活動を理解してもらい評価してもらうよう務める。

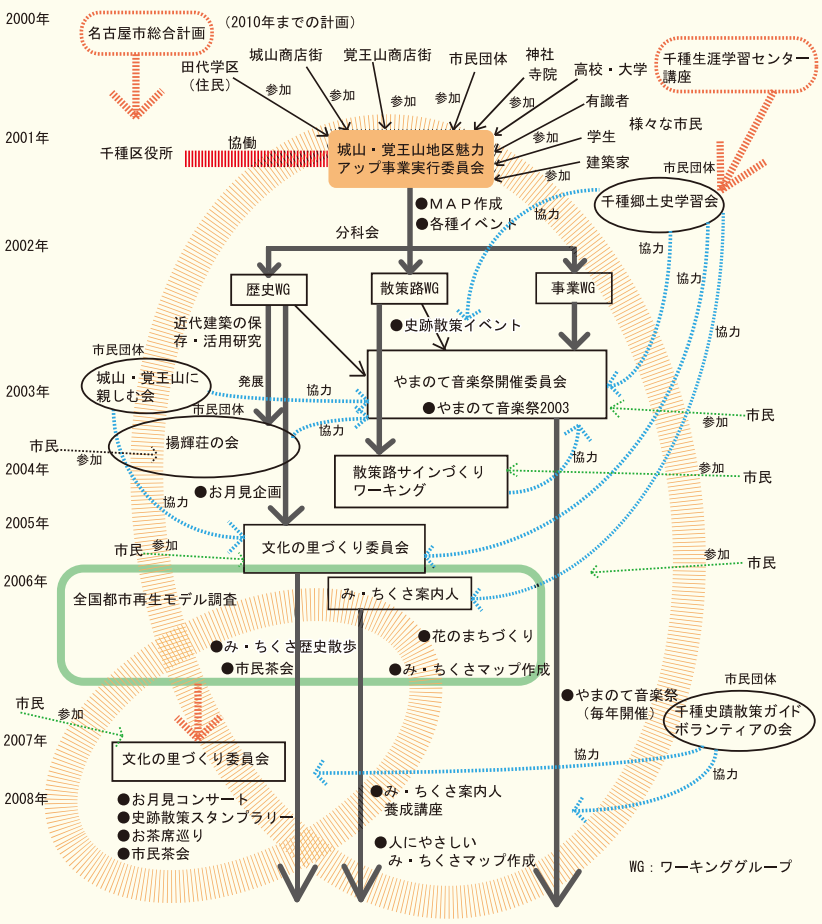
(3)活動について

- 実現可能な活動をおこない、無理をしない。
- 他の団体とのネットワークを広げるなどして、まちづくりの知識を集める。
- 安定した活動に必要な資金源を確保する(会費、助成金、協賛金など)。

事例紹介

組織が連携することでまちの課題が解決され、さらに相乗効果が。
城山・覚王山地区魅力アップ事業実行委員会

平成12(2000)年度に千種区事業としてスタートしたもので、田代学区の区政協力委員長が会長となり、商店街の役員や寺社関係者、市民団体、有識者などが集まり組織されました。
様々な立場の人が集まりメンバーも増えたため、それぞれ興味のある分野を中心に分科会形式で活動をすることになりましたが、地域の魅力アップという共通の目的のため、協力・連携が進みました。そして、地域で活動する様々な市民や市民団体が次々と参加や協力をすることになり、まちづくりの基盤に成長していきました。
例えば、地域イベント「やまのて音楽祭」は、史跡など地域の魅力スポットを会場に音楽会を開催することで、史跡に興味のある高齢世代の市民団体と若い世代の音楽愛好家の協力関係ができるなど、多様な世代の連携による相乗効果でまちづくりが推進されています。



城山・覚王山地区　まちづくり関係図

「やまのて音楽祭2009」パンフレットより

やまのて音楽祭2009
音楽ラリーの様子
地区の史跡を巡りながら音楽会会場へ案内。若いスタッフと高齢スタッフとが協力して開催しています。

Lesson2 まちの課題を見つけるテクニック

ここでは、まちづくりを始めるきっかけとなるまちの課題を見つける方法について学びます。
まちの課題を見つける方法はたくさんありますが、中でも効果的なのが「まち歩き」です。現地をみんなで見ることで、普段何気なく通っているところでも新たに発見することがあり、またまちの魅力や課題などをみんなで共感することができます。

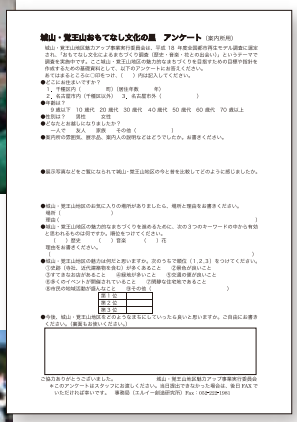
1 課題を見つけるための方法

(1)いろいろな方と意見交換

いつものメンバー以外と意見交換を行います。
いつも同じメンバーで意見交換していると、意見が偏ることがあります。いろいろな方と意見交換を行うことで客観的な意見を聞くことができ、新たな発見があるかもしれません。

地域の課題や魅力を意見交換

作成したマップの前で意見交換



城山・笠王山地域のもてなし文化の風　アンケート（実行委用）

城山・笠王山地区魅力アップ推進実行委員会は、平成 18 年度全国都市再生モデル調査に選定された「おもてなし文化による多彩なまづくり調査（歴史・景観・郷土とお話しる）」というテーマで調査を実施中です。ここ城山・笠王山地区の魅力的なまちづくりを目指すための目標字指針を作成するための基礎資料として、以下のアンケートにお答えください。
あてはまるところに印をつけ、（　　）内は記入してください。

●ここにお住まいですか？
　1．市横浜内（　　町）（居住市町　　市）
　2．市浜屋市内（市横浜以外）　3．名古屋市外（　　）
●年齢は？
　9 歳以下　10 歳代　20 歳代　30 歳代　40 歳代　50 歳代　60 歳代　70 歳以上
●性別は？　男性　　女性
●どなたとお越しになりましたか？
　一人で　　友人　　家族　　その他（　　）
●案内所の雰囲気、接客品、案内人の説明などはどうでしたか。お書きください。

●提示写真などをご覧になられて城山・笠王山地区の中と昔を比較してどのようにお感じましたか。

●城山・笠王山地区のお気に入りの場所がありましたら、場所と理由をお書きください。
　場所（　　）
　理由（　　）
●城山・笠王山地区の魅力的なまちづくりを進めるために、次の3つのキーワードの中から有効と思われるものは何ですか。理由をつけてください。
　（　　）歴史　（　　）景観　（　　）郷土
　理由をお書きください。　　（　　）
●城山・笠王山地区の魅力は何だと思いますか。次の5つを「順位（1,2,3）」をつけてください。
　①武器（砦跡、近代建築物を含む）がきくあること　②眺望が良いこと
　③すてきな品が多あること　④観光が多いこと　⑤交通の便が良いこと
　⑥歩くのイベントが開催されていること　⑦調査・協力を出来ること
　⑧地区の知域活動に参入すること　⑨その他（　　）

第1位	
第2位	
第3位	

●今後、城山・笠王山地区をどのようなまちにしていったら良いと思いますか。ご自由にお書きください。（裏面もお使いください。）

ご協力誠にありがとうございました。　　城山・笠王山地区魅力アップ推進実行委員会
＊このアンケートはスタッフにお渡しください。当日設置で不足分とも解説は、事務局（エスイー創造研究所）Fax：（0○○○○○○○）

住民へのアンケート用紙

(2)アンケート調査

地域住民あるいは、他地域の方にアンケートを行います。
直接対面して調査を行うヒアリング形式や、アンケート用紙をポストなどに投函して回収する方法があります。

(3)イベントブースを通じて意見交換（通称：オープンハウス）

市民団体がイベントなどの会場内でブースを設け、活動内容を記載した展示物などを掲示します。ブースを訪れた方に活動内容を説明し、意見交換を行います。活動やまちづくりに興味がある方と意見交換ができ、客観的な意見を聞くことができます。

(4)まち歩き

現在活動を行っている地域内やその周辺、地区外を歩きます。
まち歩きのポイントについては次の「まち歩きのポイント」で紹介します。

魅力や課題を発見するまち歩き

2 まち歩きのポイント

まち歩きの前に

❶地域に詳しい方や専門家などに話を聞く、地域史などを読む
まちの歴史や特性について知ることができます。

❷歩くコースを決め、チェックリストを作成する
特にどういう所に気をつけなければならないかを整理しておくことで効果的に歩くことができます。

❸必要なものを用意する
まち歩きを効果的に行うために、用意すると便利です。

持ち物リスト

まち歩き当日

❶地域やまちに詳しい人(地元の人)と歩く

まちを知ることができ、まちを見るポイントが分かります。

❷建物や歴史、都市計画に詳しい人(専門家)と歩く

建物や地域について知識が深まり、まちをより興味深く見ることができます。

❸グループで歩く

参加者全員で共通の認識を持つことができます。

❹記録を残す

気になる箇所はメモや写真を撮り記録します。また歩いたルート、撮影した箇所も記録しましょう。

❺まちの課題だけではなく、良い箇所も探す

双方の視点で見ることにより、まちづくりの活動の幅を広げます。

❻出会った方にインタビューする

まちの歴史や伝統、昔からの活動などまちに関する知識を得ることができます。

まち歩きの後に

❶その日のうちに記録をまとめる

記憶が新しいうちにまとめることで、忘れないようにできます。

❷写真やメモの記録だけをまとめるのではなく、参加者の感想もまとめる

後日課題を見直す時に、まち歩きの記憶がよみがえりやすくなります。

❸地域マップを作成する

まち歩きで得た情報や調べた情報を地図に書き込むことで、ビジュアル化されまちの課題がわかりやすくなります。

まち歩きマップの事例

千種区の城山覚王山地区魅力アップ事業では、テーマ「まちの魅力再発見」と題し、公募した参加者とともにまち歩きを行い、歩いたルートや途中で撮影した写真を貼りながらまちの魅力を表現したマップを作成しました。

まち歩きの後に作成したマップ

Lesson3 意見の発案、集約方法

ここでは、意見交換の場で役立つ意見の発案、集約方法について学びます。
意見交換を行っていると、たくさんの意見をまとめるのに苦労したり、なかなか意見が出なかったり、
新しい発想が思いつかなかったりすることがあります。
そんな時は、次の方法を参考にすると意見の発案、集約をスムーズに行うことができます。

その前に・・・

実際に行う前に、以下の方法で事前に学習することによって、より効果的に行うことができます

その1 経験者の話を聞く

まちづくりの経験者から活動の経緯や、まちの課題、活動内容などについて伺います。
経験者の話を聞くことによってまちづくりの知識が高まり、まちづくりに対する意欲がわきます。また、これまで気づかなかったまちの課題やまちづくりのヒントが見つかります。

その2 他事例を視察する

同じような課題を抱えている地区の視察を行います。
他の地域を視察することで自分たちの地域を客観的に見ることができます。またその地区で活動されている方や、団体にヒアリングを行うと効果的です。

1 思いのままにたくさん意見を出してみよう!(ブレーン・ストーミング)

アイデア発想法の1つで、グループの各メンバー(少人数が望ましい)が自由奔放にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して連想を行います。他人のアイデアを利用し連想することで、さらに多数のアイデアを生み出すことができます。

意見の発案

Point

❶自由な発想でアイデアを出す
❷出てきたアイデアに対し批判はしない
❸アイデアは多いほどよい
❹他人のアイデアを修正、改善、発展、結合する

❷ 出た意見をまとめよう!(カード整理)

問題解決の方法の1つで、ブレーン・ストーミングなどで出されたアイデアをカードに1つずつ書き出し、関連性のあるアイデアをテーマ毎にまとめます。アイデアを整理することで、課題に対する解決策やヒントのきっかけを見つけることができます。

Point

❶カードに1つだけアイデアを書く
❷関連性のあるアイデアをまとめる
❸テーマ毎にまとめたら見出しをつける
❹各テーマ同士の関連性を探る

カード整理

❸ 大人数の意見を把握しよう!(カード上げゲーム)

大人数の意見を把握する方法の1つで、参加者は5色のカードを持ち、事前に用意された4つの回答(白はその他)から自分の意見と合う回答を選び、カードをあげます。事前に複数の回答を用意しておくことで、大人数の意見を効率的に把握することができます。

Point

❶集中力をきらさないために設問は5問程度とする
❷回答を選ぶ時には参加者と意見交換する時間を設ける
❸意見が選択肢にない場合は「白のカード」をあげる
❹「その他」を選択した人には意見を聞き、その場で意見を紹介する

Lesson4 会議の場での合意形成のコツ

ここでは、様々な意見をまとめるための合意形成のコツについて学びます。
まちづくりは地域の住民や、自治会、企業など多様な主体が参加し、
お互いに協力し合いみなさんの合意を得て進めますが、
それぞれ立場も違い意見が異なるため合意形成が難しくなります。
そんな時は下記のポイントを参考にするとスムーズに進みます。

1 意見交換の前提条件

1.まちづくりの用語や制度を理解する

- まちづくりには専門的な言葉が多く、正しく理解していないとお互い誤解する場合があります。
- そこで名古屋市の地域まちづくりアドバイザー派遣や、地域まちづくりコンサルタント活用助成を利用し、専門家に用語や制度を説明してもらうと理解が深まります。

2.選択肢を複数用意する

- 課題や問題に対する解決策の選択肢が1つでは、判断しにくい場合があります。
- 事前に選択肢を複数用意、あるいは意見交換の中で出た意見を複数案にまとめることで、選択肢を比較することができ、判断しやすくなります。

3.事前に結論を決めておかない

- 始めから結論を決めて意見交換を行うと誘導的になってしまい、他の意見が取り入れられなくなります。
- あくまでも意見交換の中で、出された意見で合意を図ることが大切です。

4.全員に発言の機会を与える

- 意見交換の場で声の大きい人ばかり発言してしまうと、一度も発言できない人がでてきます。
- 全員一回は発言できる機会を与えることが大切です。

5.冷静な第三者(専門家等)から助言してもらう

- 発言者はお互いの環境や立場で発言することが多く、意見が対立する場合があります。
- そこで専門家などに助言をしてもらうことで、解決策が見つかりお互い納得できることがあります。

2 意見交換のテクニック

1.意見を出し合い、内容ごとに分け整理し可視化する

- 意見交換の場でただ意見を言い合うだけでは、意見がまとまらないことがあります。
- 付せんなどに意見を書き整理することで、内容ごとに意見の多い少ないが見て分かり、まちに対する思いを共有、または魅力や課題を発見することができます。

意見が出せない人、内容が理解できない人には・・・

- 意見が出せない人には、意見交換を行う前に共通の話題で世間話をするなど話しやすい雰囲気を作りましょう。
- また内容が理解できず発言できない人には、後日内容をわかりやすく説明するなどアフターフォローをしましょう。

会の集まりになかなか参加できない、しない人には・・・

- 活動内容が分かるようにまちづくりニュースなどを配布、また掲示板を利用しましょう。できれば直接会って内容を説明すると、組織や活動などに対し意見が聞ける場合があります。

2.相対する意見のメリット・デメリットを明確にする

- 相対する意見は、それだけではどちらの意見を選んだらよいか判断しにくい場合があります。
- メリットデメリットを明確にすることで、意見を比較することができ判断することができます。

3.意見の共通項を膨らませる

- 一見異なる内容の意見でも、共通している内容が含まれている場合があります。
- 共通項を膨らませることによって、お互いの方向性を合わせることにつながります。

4.少数意見も切り捨てず、反映できることを探す

- 少数意見の中には重要な意見も含まれている場合があります。
- 少数の意見でも切り捨てず、記録するなど残しておくことが大切です。

5.相互理解のために、立場を入れ替えて議論する

- 意見を発言するときは、どうしても自分の環境や立場から偏った意見になりがちです。
- 立場を入れ替えることによってお互いの立場が理解でき、思いを共有することができます。

最後に・・・

住民同士の信頼感を大切に

- 住民同士の信頼感がないと、合意形成も難しくなります。そこで日頃のコミュニケーション（挨拶や、声掛けなど）を行い、共通の話題で世間話をするなどお互い話しやすい雰囲気を作りましょう。
- 意見交換の時には、お互いの意見を最後まで聞き、批判しないことが大切です。
- また自己主張ばかりするのではなく、お互いに譲り合う心のゆとりや、相手を思いやる気持ちが大切です。
- そして日頃から協調性を持ち、根気よく誠実に取り組む姿勢がお互いの信頼につながります。

Lesson5 「まちづくり構想」づくりのポイント

ここでは、地域の目標となるまちづくり構想の作成のポイントについて学びます。
まちづくり構想とは、地域のまちづくりを住民や自治体、企業など
様々な立場の方と進めていくために共有できる、地域の将来像とその実現のための方針です。

1 必要性

(1)住民にとって

- 住民に一つの目標ができることで、地域に一体感が生まれる。
- 目に見える目標があることで、新しい住民にとってコミュニティに参加しやすい。
- 地域で生活する人の意識が高まり、まちへの愛着がわく。

(2)地域にとって

- まちの将来像を中長期に考えることによって、計画的なまちづくりができる。
- まちの課題が整理され、まちに必要なものが見えてくる。
- 将来起こりそうな問題を早めに対処できる。

(3)周囲にとって

- まちの構想があると自治会や町内会、既存のまちづくり団体が連携しやすい。
- 地域に必要なものが分かると、行政などは支援しやすい。
- 開発事業者は地域に配慮した開発を行うことができる。

2 作成におけるポイント

作成手順

構想の骨子案作成

1. 課題の発見・整理
2. 将来像、テーマの設定
3. 活動内容の決定
4. ビジュアル化
5. 意見募集・反映

繰り返し → 構想策定

構想策定が決まるまでに、2～4の工程を繰り返し、意見統一をはかっていきましょう。

1 課題の発見・整理

課題発見
- まち歩きをする
- 他地区の視察をする
- アンケート調査をする
- NPO等との意見交換

意見整理
- 共通した意見をまとめる
- テーマ毎に集約する
- 少数意見でも切り捨てない

どうやって作ったら
いいのかしら?

2 将来像、テーマの設定
- 課題の解決、魅力を生かすものにする
- 地域の特性を生かした内容とする
- 実現可能な設定をする

3 活動内容の決定
- 無理はせず、実行可能な内容とする

まずは地域の課題を
見つけることから
始めてみましょう。

4 ビジュアル化
- イラスト・図表・写真などを使う
- 文章は箇条書きにする
- シンプルで簡潔にまとめる

5 意見募集・反映
- 住民説明会を行い、意見交換をする
- その地域に関係する人にも意見を聞く
- 地区内だけでなく他地区の意見を聞く

3 行動計画づくり

まちづくり構想ができたら、次はまちづくり構想に位置付けた各活動を「だれが」「いつ」「どこで」やるのか、みんなで意見交換しながら計画をたてましょう。

活動	だれが	いつ		どこで
		短期	中・長期	
公園の花壇の手入れ	地域のママたち	○		●●公園
古いブロック塀をなくす	地域のパパたち		○	地区一帯
まちなみルールづくり	会のメンバー 行政		○	コミセン
…	…	…	…	…

最後に・・・

構想をつくる時には専門家と相談しながら進めるとよりよい構想をつくることができます。行政の各担当部署と意見交換などをすることも大切です。

そして構想を決める際には小さいことでも、まず「共有できること」からまとめていきましょう。住民同士意見が対立することがありますが、決めた後に住民同士わだかまりが残らないようお互いが納得し決めることが大切です。

Lesson6 必要経費と資金源

ここでは、まちづくり活動を行う際に必要となる経費、活動資金について学びます。
まちづくり活動を行うには会の運営費や、活動費、委託費など資金が必要になります。
そのためには資金を確保することが必要であり、資金として会費などの自主財源や、協賛金、助成金などの外部から得られる財源があり、活動の内容や規模に応じて必要な資金を集めることが大切です。

1 必要経費について

(1)運営費(会を運営するための費用です)

- 定例会の会場費
- 会議などの資料印刷費
- 会員などへ連絡する通信費

(2)活動費(活動を行うための費用です)

- まちづくりニュースやイベントのチラシなどの印刷費
- まち歩きやワークショップなどに必要な備品購入費
- 勉強会の講師などに支払う謝礼
- 視察先に行くための交通費

(3)委託費(専門家への費用です)

- まちづくり活動の指導助言に対する費用
- ニュースやマップ、チラシなどの編集費
- まちづくり構想策定や、事業化検討に対する費用

2 財源の種類

活動資金の財源は、例えば
以下のようなもので確保されています。

(1)自主財源

会費

- 会員から年会費を集めます。
- 個人向けの個人会員、法人向けの法人会員、また活動に賛同していただける方の賛助会員など会員の種類と金額を分け集める方法もあります。

事例紹介

会費

千種区で活動している「ちくさ・文化の里づくりの会」では、会員(正会員、一般会員、賛助会員)を募集して会費を徴収し、会議費やチラシ、パンフレットの印刷費などに充てています。

売上金

- まちづくりイベントを行い、参加費やイベントの出店料などを集めます。
- 会で作成したマップやグッズなどを販売して集める方法もあります。

事例紹介

売上金

「名古屋笠寺まちづくりの会かんでらmonzen亭」では、ミツバチ&Bee Gardenプロジェクトでとれた「はちみつ」を商店街で販売し、活動費用に充てています。

(2)外部財源

助成金

- 行政や財団、企業などが市民団体のまちづくり活動を支援する制度です。
- 活動の経費に対する助成や、専門家へ委託する費用の助成などがあります。

詳しくは、35〜36Pの Lesson7 を参考にしてくださいね!

協賛金

- 主に企業からまちづくり活動や、イベントを行う際に集めます。
- イベントのチラシやパンフレットなどに社名を掲載します。

事例紹介

協賛金

中区・東区で活動している「名古屋芸術の杜をみんなでつくる会」では、地域内外の店舗や企業などの広告をイベントチラシに掲載する対価として協賛金を徴収し、イベント開催経費に充てています。

寄付

- 個人や企業、団体に寄付金を募ります。
- 資金以外に、活動に必要な会議室や資材を置く倉庫、活動やイベント時に使用する資材などの提供に協力してもらえる場合もあります。

事例紹介

寄付

千種区で活動している「やまのて音楽祭実行委員会」ではコンサートを行う会場ごとに募金箱を設置し、スタッフが参加者から寄付を募り活動資金（会議費やパンフレット・チラシの印刷費など）に充てています。

Lesson7 名古屋市の支援制度について

ここでは、まちづくり活動に対する名古屋市の支援制度を紹介します。
名古屋市では、地域まちづくりをすすめるのに役立つ様々な支援制度があります。それぞれ支援できる内容や支援のための条件が異なるため、まずは市の窓口に相談して皆さんの地域に一番必要な支援制度を選びましょう。

1 地域まちづくりサポート制度（まちづくり企画課）

(1)地域まちづくりアドバイザー派遣

市に登録されたまちづくりの専門家を皆さまの地域へ派遣し、まちづくりの悩みのご相談にのります。1年間で最大5回、3年間の継続が可能です。

(2)地域まちづくり活動助成

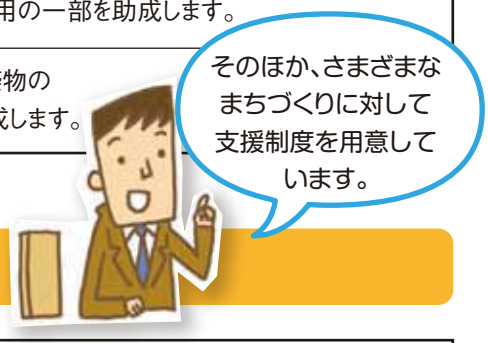
地域まちづくりの推進に資する活動を行うための経費の一部を助成します。　本助成…1回50万円以内（3回まで）
継続助成…1回30万円以内（2回まで）

(3)地域まちづくりコンサルタント活用助成

まちづくり構想の策定や、地区計画等の事業の検討をコンサルタントに委託するための費用の一部を助成します。
まちづくり構想策定…1回50万円以内（2回まで）
事業化検討…1回50万円以内（2回まで）

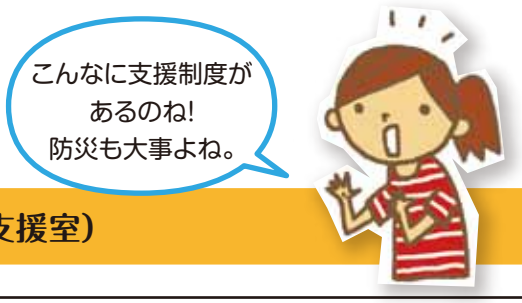
2 景観に関する支援制度（都市景観室）

(1)都市景観市民団体助成	都市景観市民団体に認定された団体における、都市景観の整備に関する活動、及び団体の運営に対する費用の一部を助成します。
(2)都市景観形成助成	都市景観形成地区において、周辺地域と著しく不調和な建築物や工作物の外観、また広告物及び広告物を掲出する物件の隠ぺい、又は改善に関する修景、及び建築物等の除却に対する費用の一部を助成します。
(3)景観重要建造物等保存助成	景観重要建造物、都市景観重要建築物の保存・活用に対する費用の一部を助成します。



3 歴史に関する支援制度

(1)町並み保存事業補助金（歴史まちづくり推進室）	町並み保存地区における建造物の修理・修景に対する費用の一部を助成します。
(2)認定地域建造物資産保存活用助成（歴史まちづくり推進室）	市が認定地域建造物資産として認定した歴史的建造物の保存・活用に向けた改修工事に対する費用の一部を助成します。
(3)なごや歴まちびと派遣（名古屋まちづくり公社）	歴史的建造物の保存・活用について、専門家を派遣しアドバイスします。



④ 防災に関する支援制度(耐震化支援室)

(1)耐震相談員派遣	住宅等の耐震改修等の相談について専門家を派遣し、アドバイスをします。
(2)民間木造住宅無料耐震診断	昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅について専門家を派遣し、耐震診断を行います。
(3)民間木造住宅耐震改修助成	市の耐震診断の結果、1.0未満と判定された木造住宅について、耐震改修工事に要する費用の一部を助成します。
(4)民間非木造住宅耐震診断助成	昭和56年5月31日以前に着工された木造以外の一戸建て住宅や共同住宅などについて、耐震診断に要する費用の一部を助成します。
(5)民間非木造住宅耐震改修助成	昭和56年5月31日以前に着工された木造以外の住宅について、耐震診断の結果「安全な構造ではない」と判定された建物の耐震改修設計及び工事に要する費用の一部を助成します。
(6)多数の者が利用する建築物耐震診断助成	昭和56年5月31日以前に着工された多数の者が利用する建築物について、耐震診断に要する費用の一部を助成します(大企業が所有の場合は除く)。
(7)耐震シェルター等設置助成	市の耐震診断の結果、0.7未満と判定された木造住宅に高齢者等が居住している世帯を対象に、耐震シェルターや防災ベッドを設置する費用の一部を助成します。
(8)ブロック塀等撤去助成	道路に面する高さ1m以上のブロック塀等について、撤去に要する費用の一部を助成します。
(9)地域ぐるみ耐震化促進支援事業	町内会などの地域団体が主体となって取り組む地震対策の活動に係る費用の一部を助成します。
(10)都市防災不燃化促進補助	不燃化促進区域(広小路線地区、東郊線地区)において一定の基準に適合する耐火建築物、又は準耐火建築物の建築に対する費用の一部を助成します。
(11)生活こみち整備促進事業助成	米野地区・御剱地区において、幅員4m未満の狭い道路に面した建物を建替える時等にできる後退用地を、一般の交通・通行の用に供する通路(後退通路)として整備する場合、費用等の一部を助成します。

⑤ 緑化に関する支援制度(緑地計画課)

(1)みどりの補助金	あいち森と緑づくり税を財源に、質・量ともに優れた民有地の緑化工事(一定の規模等の条件を満たす屋上緑化、壁面緑化、空地(地上部)緑化、駐車場緑化)に対して費用の一部を助成します。

⑥ その他まちづくりに関する支援制度(名古屋都市センター)

(1)まちづくり活動助成	市内を中心に地域に根ざしたまちづくり活動をしている、又は活動をはじめようとしている団体の活動に対する経費等の一部を助成します。

※名古屋都市センターでは、まちづくりに関する情報提供や相談なども実施しています。

Lesson8 まちづくりの事例

日進市芦廻間（よしはざま）地区のまちづくり

まちづくりの発意

芦廻間地区は、かつて雑木林や田んぼのあったところが切りひらかれ、1975年頃住宅地として売り出されました。1990年に自治会は良好な住環境を守るために、建物の階数を2階以下にするなどを定めた「建築規約」を定めましたが、20年経過し新たな課題も出てきたため、建築規約の内容を見直し、より強い効力をもつルールづくりを視野に、「自分たちのまちを自分たちで考え守り育てるまちのルール」を検討しようと、自治会約300世帯のまちづくり活動が活発化しました。

日進市岩崎町芦廻間地区

組織づくり

まちのルールづくりを中心に検討する検討委員会を立ち上げ、自治会内で正式に承認された「専門委員会」のひとつとして、2010年12月から活動を始めました。委員長1名、副委員長1名、会計1名、その他委員6名、アドバイザー1名という体制で月1回の検討委員会を開催し、「まちづくりビジョン」の作成、そして「まちのルール」づくりを進めました。

検討委員会は、検討した成果を住民へ発信し意見をもらうため、「かわらばん」を発行したり、文化祭で展示し意見を募集したりしました。

ワークショップで出されたまちの理想像にシール投票（ひとり3枚）
希望の葉っぱカードに「こんなまちになったらいいな」を書き込んで貼り付け

かわらばん

文化祭の展示コーナー

まちづくりビジョンの作成

検討委員会を拡大し、子どもを含め多くの住民の方に集まってもらい、「まちづくりワークショップ」を2回開催しました。

そして、ワークショップで出された意見やアイデアをもとに、検討委員会で「まちづくりビジョン」を作成しました。

ワークショップの様子

ワークショップ①の意見

ワークショップ②の意見・アイデア

まちづくりビジョン

みどり・ゆったり・思いやり

～絆であんしん 芦廻間～

■まちづくり基本方針～5つの柱

よ：寄り添って。笑顔とみどりのあふれるまち

みどり豊かな自然環境や坂道の美しい風景を守りながら、昆虫・小鳥・草花などの生き物たちと寄り添って、みんなが笑顔でやさしく暮らせる、そんなまちづくりに取り組みます。

し：静かで安心安全。ゆったり暮らせる住環境

このまちは、低層な戸建住宅がゆったりと建ち並ぶ閑静な住宅地です。この良好な住環境を守りながら、防犯・防災・事故防止にも配慮した安心安全なまちづくりに取り組みます。

は：ハード&ハート。みんなでつくるみんなのまち

土地や建物など「ハード」のルールだけでなく、ここで暮らす私たちの「絆」や「つながり」を育む「ハート」の仕組みづくりも大切にしながら、みんなでまちづくりに取り組みます。

ざ：さっくばらん。気遣いつつも、気兼ねなく…

これからは、ご近所や地域など身近なコミュニティで互いに助け合い、支え合いながら暮らしていく時代です。老若男女・世代を超えできることを持ち寄り、分かち合うまちづくりに取り組みます。

ま：守り育て、暮らし続けたいまちをこどもたちに

まちも時代と共に変化する生き物のようなもの。守るべきものは守り、変えるべきことがあれば、みんなで話し合って変えていくことが重要です。このまちの先輩方がそうであったように、「自分たのまちは自分たちの手で守り育て、次世代へと継承していく」まちづくりに取り組みます。

まちづくりビジョンの実践

まちづくりビジョンのまちづくり基本方針にそって具体的な活動へと動き出しました。自治会文化祭では、検討委員会がまちづくりの啓発活動を行いました。自治会の清掃活動も今まで同様しっかりとやっています。そして、まちのルールの具体的な内容検討を行いました。

委員会で合意された内容について、日進市と相談を重ね、地区計画に盛り込む内容と、自治会で定めた建築規約に盛り込む内容とに分け、「地区計画案」と「自治会建築規約改定案」を作成し、2012年9月に住民説明会を開催しました。

説明会での意見や全戸から集めたアンケートをもとに、さらに修正案を作成し2013年2月に説明会を開催しました。

説明会の様子

公式Webサイトでもご覧になれます。

名古屋市 地域まちづくり手引書　検索

■名古屋市役所
http://www.city.nagoya.jp/

■名古屋都市センター
http://www.nui.or.jp/

Start編
Master編

地域まちづくり手引書
～まちに飛び出せ!　N子さん～

発行年月:平成25年4月

名古屋市 住宅都市局　まちづくり企画部 まちづくり企画課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
TEL 052-972-2938　FAX 052-972-4162
E-mail a2938@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

協　力:株式会社エルイー創造研究所
イラスト:志水ヒロミチ　デザイン:クリエイティブアスラ

※イラスト・デザイン等無断転載・複写を禁じます
この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。